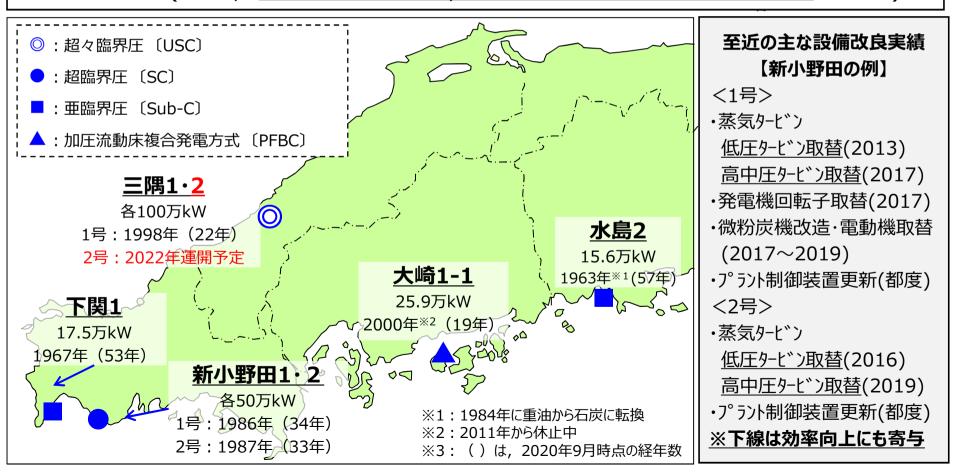
当社の石炭火力の状況について (石炭火力検討WGご説明資料)

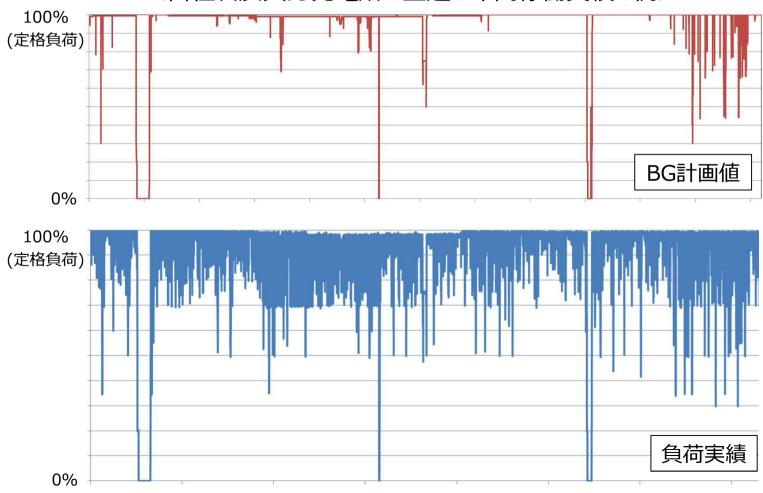
2020年9月18日中国電力株式会社

- 当社の石炭火力発電所は、Sub-Cが2基(水島2号、下関1号)、SCが2基 (新小野田1,2号)、USCが1基(三隅1号)であり、USCを1基(三隅2号) 建設中です。
- 既設の発電設備は, 継続的な設備改良投資等で, 発電効率の維持・向上に努めております。(結果, 2030年断面でも, 相当の簿価が残る発電所もある見込み)



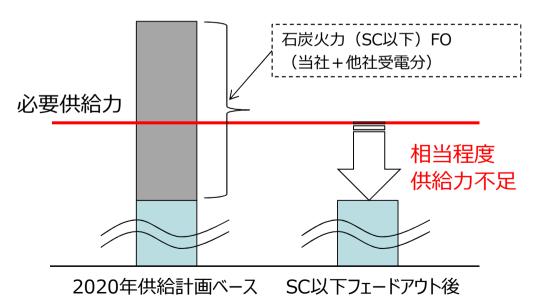
● 当社は、石炭火力の比率が高い中、昨今は<u>再工ネ導入拡大による調整運転等</u>で利用率が低下しており、エリアの需給運用上、<u>実力通りの発電効率が発揮できていない</u>という課題も抱えております。





- 当社では,島根原子力や三隅火力等の<u>供給力の増加に併せ,経年火力を段階</u>的に休廃止させていく考えで,これまで検討を進めてまいりました。
- これに加えて、現在のエネ基の記載にあるSC以下を非効率石炭火力と仮定し、他 社受電分も含め、数百万kWの供給力がフェードアウトした場合、相当程度の供給 力が不足することになると見込んでおります。

<2030年時点の自社エリア需給見通し(イメージ)>

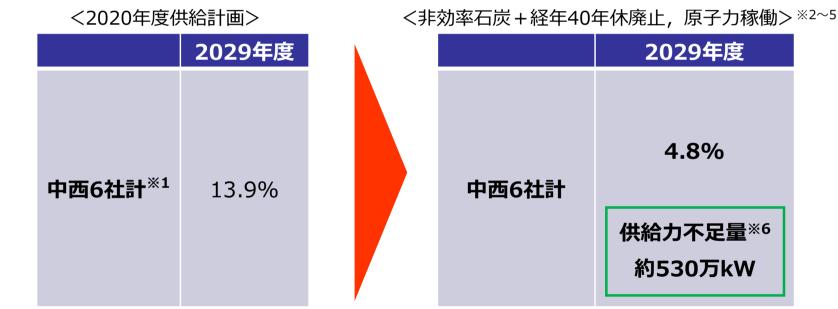


当社および他社受電分の 石炭火力(SC以下)

| | 型式 | 出力 (万kW) |
|----------|-------|-------------|
| 水島2号 | Sub-C | 15.6 |
| 下関1号 | Sub-C | 17.5 |
| 大崎1-1号 | PFBC | 25.9 |
| 新小野田1,2号 | SC | 50×2 |
| 他社受電分 | 160 | |
| 合計 | 320 | |

● 自社エリアで不足する場合でも,60Hz全体での供給力を広域活用することで一定程度カバー可能ですが,一定の仮定の下に試算すると,原子力の稼働状況等によっては,リスクが生じることになるものと受け止めております。

【2029年度における中西エリアの予備率見通し】



- ※1:2020年3月「2020年度供給計画の取りまとめ」(電力広域的運営推進機関)における中部、北陸、関西、四国、九州、中国エリアを指す
- ※2: 非効率石炭火力は、SC(超臨界)以下を休廃止と仮定(約700万kW)
- ※3:経年火力は、40年超を休廃止と仮定(約1,400万kW)
- ※4:原子力は、40年超運転を行うものとし、新規制基準適合性審査の申請中・認可済の18基が稼働すると仮定(約1,770万kW)
- ※5:長期計画停止等の電源(公表ベース)は、追加の停止量に含めず
- ※6:供給力不足量は、エリア需要+予備率11%(8%+厳気象リスク対応3%)に対する不足量

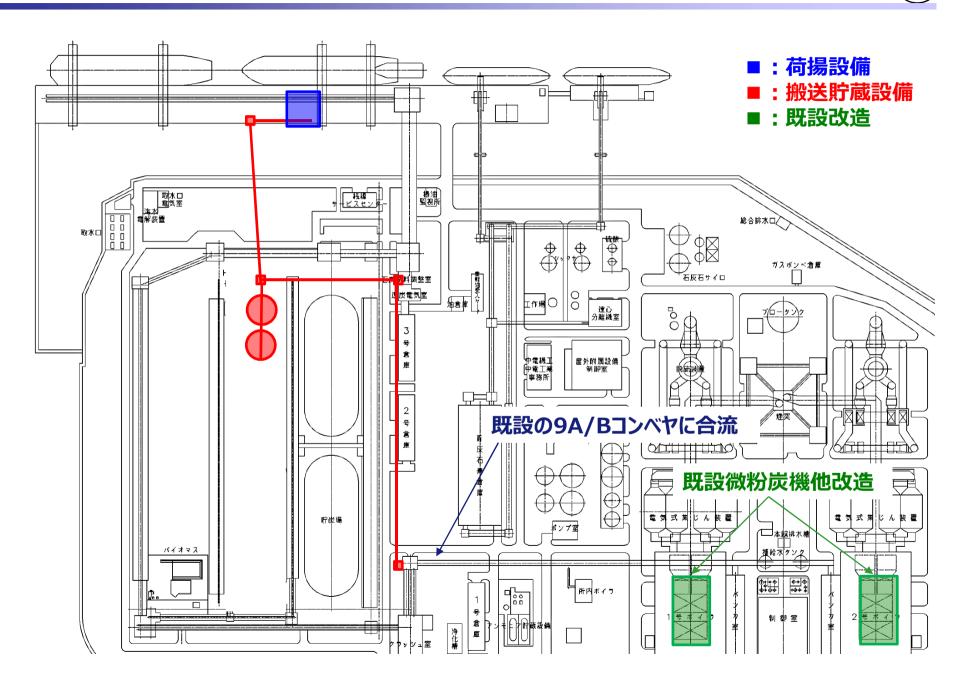
- 当社は,2030年までのフェードアウト・新陳代謝を進めつつ,FITで認定されたバイオマス混焼等も活用しながら,省エネ法の目標達成を果たし、その上で、一定の時間軸を持って、更にフェードアウトを進めていく計画で取り組んでおります。
- このため、新小野田1,2号では、2017年9月にFIT法に基づいて認定を取得し、2020年8月からバイオマス混焼を開始したところであり、制度の枠内で、バイオマス混焼のための設備投資を行うとともに、バイオマス燃料についても、既に長期契約を締結済の状況です。
- <u>FITの認定期間は,新小野田1号が2032年8月まで,新小野田2号が2030年10月までですが</u>,少なくとも,<u>この間にフェードアウトとなる場合,設備・燃料ともにストランデッド化してしまうという問題を抱えております。</u>

<新小野田1,2号の概要>

| | 新小野田1号 | 新小野田2号 | |
|---------|-----------------|------------------|--|
| 運開年月 | 1986年4月 | 1987年1月 | |
| FIT認定取得 | 2017年9月 | | |
| FIT開始 | 2020年8月 | | |
| FIT認定期間 | 約12年間(~2032年8月) | 約10年間(~2030年10月) | |

【参考】 新小野田1,2号 バイオマス混焼設備の設置状況(配置図)





【参考】 新小野田1,2号 バイオマス混焼設備の設置状況 (構内図)



撮影:2020年6月29日

| 設備区分 | 名 称 | 仕 様 | 設置状況 | |
|--------|----------|------------------|------|--|
| 荷揚設備 | 荷揚設備 | ニューマチック アンローダ | | |
| | 平均払出能力 | 300t/h | | |
| | 最大払出能力 | 400t/h | | |
| 受入搬送設備 | 受入搬送設備 | コンベヤ | | |
| | コンベヤ搬送能力 | 400t/h | | |
| | コンベヤ仕舞 | 屋外カバー式 | | |
| | コンベヤ系列数 | 1条 | | |

| 設備区分 | 名 称 | 仕 様 | 設置状況 |
|------------|----------|----------------------|------|
| 貯蔵設備 | サイロ容量 | 3,000 t /基 (有効容量) | |
| | サイロ基数 | 2基 | |
| 払出搬送 設備 | 払出搬送設備 | コンベヤ | |
| | コンベヤ搬送能力 | 300t/h | |
| | コンベヤ仕舞 | 屋外カバー式 | |
| | 既設コンベヤ流用 | 9 A / Bコンベヤ | |

- 当社としては、今回の政策の加速化のご要請につきましても、鋭意、取り組んでまいる所存です。
- そのためにも、本日ご説明させていただいた個別の事情も踏まえ、
 - ・エリアの需給運用も踏まえたフェードアウト対象に関する発電効率の適正な評価
 - ・安定供給リスクや事業予見性を踏まえたフェードアウトに向けた柔軟な制度設計 (一律ではない,事業者の実情に応じたフェードアウト計画の選択肢)
 - ・残存簿価を一括費用認識することにならない様な措置について、ご検討をお願いしたいと考えております。